

ポイント完全マスター！

国語読解の名人Ⅱ

はじめに

皆さんは国語の長文読解は得意ですか。

もしあなたが長文読解を苦手としているなら、ただやみくもに問題量をこなすだけではそれは解決しません。長文を読みこなすにはコツがあります。それは、次の3点です。

①まず大切なことは鉛筆を持つことです。文を読んでいて大切だと思った語句を○で囲んだり、結論などが書いてある文に線を引きましょう。

②次に大切なことは文全体を通じ、作者が何を伝えたいのかを把握することです。○で囲んだところや、線を引いたところを中心に読みましょう。

③そして最後に、設問にあてはまる部分を本文から探すことです。国語の長文読解問題は数学などと違い、答えは「問題文の中に必ずかくされて」います。

本書は、以上の3点を自然にマスターできるよう編集された画期的な教材です。

この教材を通じて、あなたが文章を読むことが好きになり、そして国語の点数がアップすることを願っています。

本書の三大特色

一．厳選された文章

みなさんが興味を持って読めるよう、文章は新鮮味あふれるものを選びました。途中で飽きることなく最後まで楽しく読み進めることができます。

二．高校入試頻出の問題

各回には3つの大問を設けてあります。

「キーワードをさがそう！」では、文章中のキーワードを見つける力を身につけられます。

「ポイントをつかもう！」では、文章全体の内容を理解する力が養えます。

「文を深く読み取ろう！」では、答えは必ず本文中にあるということを意識し、文章を読みこなす力が身につけられます。

すべての問題は高校入試でよく出題されるパターンを集めてありますから、入試本番での得点アップにつながるでしょう。

三．3つにランク分けされた問題

初級から中級、そして上級へと問題がレベルアップする編集により、やさしい問題から順序立てて取り組むことができます。その結果、問題を解く力を着実につけることができ、あなたの自信へとつながっていきます。

	上 級								中 級								初 級											
	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	回
	漢文③	古文③	俳句と説明文	論説文⑤	論説文④	随筆文④	小説文⑥	小説文⑤	漢文②	古文②	短歌と随筆文	詩と鑑賞文	論説文③	論説文②	随筆文③	説明文③	小説文④	小説文③	漢文①	古文①	論説文①	随筆文②	随筆文①	説明文②	説明文①	小説文②	小説文①	単元名
	ことばの知識（ことわざ・慣用句・四字熟語）	名人にはかなわない ——『列子』——	中国の賢人の話 ——吉田兼好『徒然草』——	松のことは松に習へ ——辻 桃子『俳句の作り方』——	ボランティアにとっての「報酬」——金子郁容『ボランティア もうひとつの情報社会』——	村の時間・都市の時間 ——内山 節『川の時間』——	スケッチに魅せられて ——岡田喜秋『旅のあとさき』——	14回目の誕生日 ——重松 清『エイジ』——	まだ字が書けないんだ ——保坂和志『季節の記憶』——	望郷の思い ——盧 僊『南樓の望』——	鐘（やり）はなぜ赤い？ ——安楽庵策伝『醒睡笑』——	人生をかけて歌を読む ——竹西寛子『賭けとしての読み』——	気分は最高！ ——萩原昌好『少年少女のための日本名詩選集』——	哺乳動物が生まれてすぐに学ぶこと ——中川志郎『なぜ動物は子供をなめるのか』——	経済の発展と人間関係の変化 ——児玉 裕『あなたは買わされている つくられる消費社会』——	近代技術と職人の技 ——伊東光晴『君たちの生きる社会』——	夏休みは楽しいな ——群ようこ『膝小僧の神様 セミの脱け殻』——	はじめての遠足 ——竹野 栄『友情は海をこえて』——	季節を感じる ——杜 甫『絶句』——	正月一日と七日 ——清少納言『枕草子』——	エンピツヲカシテクレ ——山鳥 重『ヒトはなぜことばを使えるか』——	昆虫の目から見た自然 ——澤口たまみ『何てったって、虫が好き！』——	ドクトル木こりがやって来た ——三浦哲郎『樹の瘤』——	植物のさまざまな工夫としくみ ——田中 修『つぼみたちの生涯』——	写真の利点と欠点 ——名取洋之助『写真の読みかた』——	溺れた友だちを救え！ ——笹山久三『ゆたかは鳥になりましたかった』——	いったい「ユウ」に何があったの？ ——阿部夏丸『オグリの子』——	タイトル
48	47	46	44	42	40	38	36	34	33	32	31	30	28	26	24	22	20	18	17	16	14	12	10	8	6	4	2	ページ



ターゲット

- 軒下で座り込んでいた「ユウ」の様子を想像しよう。
- 「ユウ」に対する吾郎とコージの気持ちを読み取ろう。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「あつ、ユウくん！」

軒下に、ユウが座り込んでいた。ランドセルを背負い、塾の手提げ袋をもったユウが、まるで捨て猫のような姿で座り込んでいた。今にも泣き出しそうな顔だった。そして、遅れて顔を出した吾郎の顔を見て、照れ臭そうに小さなお辞儀をした。

「寒かったろ、一杯やるか？」吾郎は、冗談交じりにそういうと、台所へ向かった。

コージとユウは、向かい合うように座った。(中略)

やがて、台所から吾郎が、お盆をもって現れた。

「牛乳しかないけどな、あたたまるぞ」

「すいません」ユウは、ペコリと頭を下げると、一気に牛乳を飲み干した。

「ふうっ、うまい」ユウの顔に、笑みがこぼれた。

鼻の下を真っ白にしたユウを見て、吾郎もにつこりと笑った。

「ユウ、腹減ってたのか？」

「晩飯食ってなかったから……」

「よし、待ってろ」吾郎は、張り切って台所に向かった。鍋の音や水道の音が聞こえてきた。床をきしませる足音もした。それを聞きながら、二人は黙ったままだった。

Hop キーワードをさがそう！

(1) 「ユウ」は、どのような姿で座り込んでいたか。文章から八字で抜き出し、⁽¹⁾ で囲みなさい。

(2) 軒下にいた「ユウ」は、どのような顔をしていたか。文章の中からさがし、⁽²⁾ で囲みなさい。

(3) 台所からはどのような音が聞こえてきたか。文章中から四つさがし、⁽³⁾ で囲みなさい。

Step ポイントをつかもう！

線「おっ、なんだ、コージ。マラソンでもないか」と、吾郎が言ったのはなぜか。最も適切なものに○をつけなさい。

ア 吾郎とコージは、まだ身体があたたまっていなかったから。

イ 夜のマラソンは、吾郎とコージの日課と決まっていたから。

ウ ユウをだれもいないところで、思いきり泣かせてあげたかったから。

エ 泣きそうになっているユウをはげましてやろうと思ったから。

いったい「ユウ」に何があったの？

コージは、この追い詰められた友だちにかける言葉などもち合わせていなかった。そして、ユウは、言葉など交わしたら、泣き出してしまいそうになる自分を感じていた。ときおり、台所から聞こえてくる、調子つばずれな鼻歌を聞きながら、二人は黙ったままだいた。

「おまたせー」吾郎は、台所からごきげんな顔でやって来ると、ラーメンの入ったどんぶりをユウの前に置いた。

「さっ、早く食え」

ユウは、割り箸をバキンと割ると、どんぶりに顔を近づけた。ふわっとあたたかい湯気が顔を包んだ。

「いただ・き……」ユウは、を食いしばった。あたたかい湯気で、張り詰めていたユウの心が、崩れ落ちた。

「うくっ、くくっ……」

涙を堪えるユウを見て、うろたえながら、吾郎がいった。

「おっ、なんだ、コージ。マラソンでもないか」

「えっ、う、うん」

ユウに止める暇も与えず、二人は玄関を飛び出した。

（こんな夜に、マラソンだなんて

……）と、ユウは思った。

（なんて、間抜けなんだ……なんて

……やさしいんだ……なんて……）

ユウの心には、^③ラーメンの特別な

あたたかさだけが残った。



Jump

文を深く読み取ろう！

(1) 線①「吾郎は、張り切って台所に向かった」とあるが、それはなぜか。次の文の空欄にあてはまることばを書きなさい。

腹が減っている様子の

に、

を食べさせてやろうと思ったから。

(2) 線②「二人は黙ったままだった」のはなぜか。次の文の空欄にあてはまることばを書きなさい。

コージは、

友だち

にかける

をもち合わせていなかったし、ユウは、

を交わしたら、

しま

いそうだったから。

(3) にあてはまることばを漢字一字で答えなさい。

(4) 線③「ラーメンの特別なあたたかさ」とあるが、「特別なあたたかさ」とは、どのようなあたたかさを意味しているのか。考えて書きなさい。